

令和6年度 園評価書

園番号 53

園名 横砂こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
やさしく たくましい子	笑顔いっぱい 元気いっぱい ～すごいぞ! よこすなっこ～	好きな遊びを見つけじっくり楽しむ中で「なぜ?」「どうして?」と疑問や気づきについて考えたり、試したり個々に面白さを感じている	子ども自身が、好きな遊びや興味のある事に向かっている時は見守り、疑問や面白さを感じている時は思いに寄り添い、一緒に考えたり喜んだりして、楽しさを共有するよう関わっている	A	A	子どもの遊んでいる様子を見てみると、皆生き生きとして楽しく遊んでいる事が伝わってくる。乳児から年長までが、一緒に園庭を使っている事で、自然と交流し、遊びに入れてあげたり、大きいクラスのまねをしたりして育ちあっているのが良い。	今日の遊びを振り返る時間を持つ中で、写真や動画を活用するなど、工夫を考えていく。
		保育者や友だちと一緒に遊んだり関わる中で「自分ってすごい!」という気持ちを、一人ひとりがもち、自分の力を発揮している	子ども一人一人の良さを保育者が認め、周りに発信していることで、子どもの自信に繋がりが自分の思いを安心して表現できるようになっている。また、友だちの良さに気づくきっかけにもなっている。	A	A	自分で、遊びを作り楽しむ経験はととても、大切で遊びからの学びが子どもにとってたくさんあると感じた。	制作や遊びで作ったものをもって出ることが出来る棚を室内外で活用し、遊び始めから、遊びの終わり(片付け)までを見通し、環境の工夫を考え習慣化していくようにする。
		様々なことに「やってみよう・やってみよう」と意欲を持ち取り組もうとする子どもに育っている	友だちのしている事に関心が向くようになり、刺激し合いながら、様々な遊びや活動に取り組む姿が見られるようになった。年長、年中児になると、友だちと一緒に考え取り組む事が増え達成感を味わう様子が見られる。	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	各年齢の発達を抑え一人一人の発達や経験の差を理解し、個々に応じた教育保育を進めている	運動会をきっかけに、乳児・幼児共に年齢に合った環境を見直し、遊び空間を分けた事で、安心してよりじっくりと遊ぶ姿が見られるようになった。	A	A	子どもの発達に合わせて環境を考えるのはとても大切で、職員が子どものために頑張っているのは素晴らしいと思う。	教育課程を日々活用し、発達を年齢で考えず、一人一人の発達の状況や必要な環境や関わりについて考えていくようにする。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の生活リズム・家庭環境を把握し、ゆったりとした雰囲気の中で安心して生活できるように配慮している	月に一回以上、クラスの様子や個々の育ちの様子を伝え合い共有し合っている。そのため、遅番や早番、土曜保育で担当が不在の時も、安心して過ごせるように個々に合わせたかわりを意識し、全職員で全園児に関わっている	A	A	伝達が不十分という反省があったのなら、次年度に活かしてほしい。	クラスの様子や個々に対する配慮点を話し合った後に、会議に参加していない職員にも、周知するようにしていく。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	生活や遊びの中で、いろいろな素材・資源(もの・ひと・こと)に触れ、特性に気づきながら物を大切に扱うことが意識できる環境が用意されている	季節や子どもの興味・関心に合わせ、自然物や様々な素材、必要な用具を揃えるように意識しているが、準備に遅れてしまうこともある。また、素材の性質を活かした使い方や、物を大切に使い片付けることが、不十分なことがある。	B	B	季節に合った環境づくりを、頑張っていると感じるが、タイムリーな提供や教材の準備などに関しては、反省を活かして行ってほしい。	保育者自身も、戸外、室内の片づけや掃除、用具や素材の丁寧な取り扱いを日々習慣化し、子どもにも投げかけていくようにする。視覚的にも片付けやすい環境の工夫を皆で考えていく。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	非常時における意識や安全な行動を身につけ自ら判断・行動できるように、地域と連携しながら計画的に避難訓練や不審者訓練を実施している	様々な緊急時を想定し職員・子どもと共に“どのように行動したらよいか”を考え取り組んできた事で、立場に関係なく、職員一人一人が今何をしたらよいかを考え訓練に参加するようになった。	B	B	地震などの訓練は、絶対に大丈夫ということはないので、判断は難しいが、研修に参加したり話し合いをしていることは、評価できる。今後も安心して毎日過ごせるように、避難訓練は続けていって下さい。子ども自身が危険についてわかるようになる事はとても大切だと思います。	災害や不審者対応などにおいては、指示待ちではなく、職員・子ども各自が判断してリスクの少ない行動がとれる事を目標にし、柔軟に想定をかえながら訓練を計画し進めていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	食育活動や栽培を通して、栄養士や調理師と連携し、食に関心をもち楽しく食べる機会をつくっている	地域の生産者や業者の方など外部の方に講師となって頂き、食材や食と体のつながりなどを知る機会を持った事で、食べる事への関心が深まった。クッキングやパンバイキングなどを実施し、楽しい食体験を重ねている。	A	A	食育の体験はとても良いと思う。色々な方の話を聞いたり、そのあとに実際にクッキングしたりすることで、食べ物などに興味がわくと思うので今後も続けていってください。	栽培やクッキング計画は、子どもに何を体験させたいかとねらいを持ち、確実に実施していくようにする。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の特性や個性に合わせ、支援計画を立て、ねらいをもち園内研修を実施し、支援の手立てを学び合い共通理解している	支援が必要な児童に対して、安心して生活できる環境づくりや関わりを、職員間で考え共有していた。また、保護者とのサポートプラン面談を重ねてきた中で、担当保育者との信頼関係を築き、子どもに関する悩みなどの相談を受ける事も多くなり保護者支援に繋がっている。	B	B	色んな方の話を聞いたり、そのあとに実際にクッキングしたりすることで、食べ物などに興味がわくと思うので今後も続けていってください。	サポートプランの作成や面談、担当者の研修を計画的に実施していけるようにする。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任を持ち、組織として協力し合いながら運営をすすめている	分掌を中心に、行事や活動が計画的に企画されている反面、全職員への周知や余裕をもって準備することが不十分だったこともあった。職員間は、互いに相談したりフォローし合ったりしながら協力体制の基、取り組む姿が増え良好な関係が築けている。	B	A	係があつて行事が進んでいく中で、協力できる事は皆で取り組んでいるのは良い。職員の関係もいいようで、それも大切なことだと思います。	行事や参加会など、ねらいや企画の視点を明確にし、口頭や書面でも共有することで、連携を取りながら進めているように徹底する。
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修テーマ「なぜ?」「どうして?」が面白くなる環境の工夫を常に意識し、日々の手立てを行い、研究保育を実施し園内研修を進めている	各クラスの研究保育を通して、子どもの遊びや行動から、思いを読み解いたり、環境構成や関わり方の良い点などを伝え合ったりして、学びを深めてきた。教材研究を今以上に取り入れ、個々のスキルアップに繋げていきたい	B	B	近隣の園や小学校との交流が深まったのは、本当に良かったと思います。小さい園だけと、色々な方との交流を増やしているのが大切だと思います。	季節や子どもの今の興味、関心に合わせた教材研究を計画的に実施できるように企画・実施を進めていく。
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	季節に合った素材を取り入れ遊んだり、散歩に出掛け自然物に触れて、のびのび楽しめる環境が用意されている。魚を守ろう大作戦として、地域の自然(海・川・生き物)に触れ関心を育む	花育や、虫、魚などの飼育を通して、生き物や植物に触れる機会が持てた。近隣の海や川の様子から、自然の不思議さを感じた子どものつぶやきをきっかけに、海の水の色の変化について考え地域の自然を通して身近な環境について関心を深めたりしている。	B	A	げんきってココロも先生が一人でできてやるには、大変ではないかと考えてしまいう回がありました。皆よくやってくれて有難いです。地域の催事に、積極的に参加しているのがいいと思います。子どもと接することで、元気を貰える事もあるので、地域のお年寄りや交流をするなど、お互いにとっていい体験だと思います。	天候や行事に留意して、園外保育の計画を年間計画や月案、週案の中に取り入れいこうし、散歩に行く機会を増やしていくようにする。
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園だより、クラスだより、ボードの掲示等で日頃の活動の様子を伝え、園の取り組みを発信している。必要な家庭と随時面談を行い、連携を密にして保育を進めている	送迎時に、個々の遊んでいる様子を伝えたり、ポートフォリオにて入口に掲示したりして、行事やクラスの様子を発信している。1月より、配信アプリドモンにて、クラス毎、ドキュメンテーションの配信を開始している。	A	A		アプリによるドキュメンテーションの配信を活用しつつ、親子と一緒に楽しかった活動や行事を振り返ることが出来る工夫をしていく。
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣園(西久保・辻・清沢など)や小学校と交流や研修を通して、連携やつながりを深めている	近隣園との、交流を重ねることで子ども同士が親しくなり、再会を喜んだりやり取りを楽しむ姿が見られるようになる。私立保育園との交流や職員同士の研修会参加により、今後の交流についての意見交換ができた。	A	A		近隣園や小学校との交流を来年度も継続していくように、早めに連絡を取り合い年間計画をたてていく。
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域の活動に参加したり、地域の方と関わる機会をもつ。(奉納相撲大会・子育てトークの会・花育教室・津波訓練など)	カフェげんきっこへの職員の参加が定着し、地域の子育て家庭の方とかかわる機会となった。すこやかサロンや地域の催事への参加を通して、地域の方とのやり取りを園児・保護者共に楽しんでいる。	A	A		おしゃべりサロンでは、園児との触れ合いを取り入れた内容を考え、チラシを配布したり地域での声掛けを増やしたりして、広報活動をしていく。